ふるさと　わがまち　わが地域

古の神に護られる　牧ノ谷（まきのたに）地区250607

世帯数　　9世帯
人口　　28人
（平成25年5月末）

世帯数　　9世帯
人口　　53人
（昭和30年10月1日）

★地区概要

牧ノ谷は、此代地区で農業が営まれ戸数が増加するにしたがい、耕地が広げられ「乗原」、「牧ノ谷」に進出して居住し、今日の牧ノ谷の基礎ができる。（現在でも乗原、牧ノ谷は大字此代区に入っている）。かつては、牧ノ谷から乗原坂、七曲、六甲と続いて乗原に行く山道がありましたが、現在は往来ができません。現在も世帯数は変わりませんが、人口は半減し高齢化が進んでいます。

集会所横にある庚申塔（文政7年・1824）
と供養塔（文化3年・1806）

昭和44年度・45年度の継続事業で行われ、農業の経営近代化が図れたため、それを記念して建立された牧田圃場整備記念碑。

道祖神社（塞の神・さいのかみ）

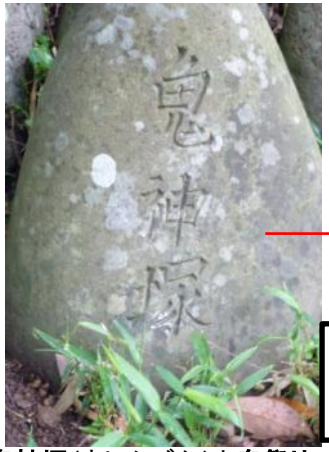
道祖神は、村の外れにあって外部から村に悪い霊が進入するのを防ぐと言われている。

この道祖神社には「猿田彦大神（さるたひこのおおかみ）」と「天宇受売神（あめのうずめのかみ））」が祀られており、道の神・道祖神（どうそしん）と伝えられています。

元々は、天孫降臨の際に出会った猿田彦大神と天宇受売神はこれが縁で結婚し、この二人が一緒に道祖神になったと言われています。

また、道祖神は男女神なので、しばしば神社には立派な陰陽石が祀られていることもあります。そして、道祖神への御供え物には、紙または野菜で作った男女の性器の形の物が好まれていることから安産祈願・子宝祈願にも関わるとも伝えられています。

この二人については後に、猿田彦大神は天狗に、天宇受売神はお多福になったという説もあります。（引用竹野区誌より）



鬼神塚と何故一所あるいわれはかわかりませんが
天保八年（1837）　霊神参同良契信女
丁酉二月十九日（同日に大塩平八郎の乱が発生）

鬼神塚（きしんづか）と**鬼祭り**

大江山に棲む三鬼の鬼『英胡・軽足・土車』は麻呂子親王の軍勢に追われ、丹後町まで逃げてきます。願興寺を経て牧ノ谷の辺りで英胡，軽足を含めた一族は征伐され、土車は鬼の岩屋に（立岩）へ幽閉されてしまいます。この牧ノ谷の入口には、鬼神塚と呼ばれる鬼の墓と言われる石造物が存在します。そして、江戸時代まで、ここで鬼祭りがあったことが文献に記されています。『丹哥府志・たんかふし』によると、旧暦の11月の丑の日の鬼祭り様子として、「其祭の次第異風なる事なり、始め竹野村の下社家というもの36人斎戒沐浴して祭の前夜より清浄の家を撰（えら）み竹野村に籠る。翌日相与（あいとも）に宮村に来り社司櫻井氏と同じく牧ノ谷へ往き、是（ここ）に於いて呪文をあげる。世の人其祭り与る人に見らるる時は、3年の内に命終るとて一人も其祭を見るものなし。（中略）」（引用広報たんごより）